



しゅうぶん 秋分の日に思うこと

2021年9月23日は秋分の日です。太陽が、春分の日のごうど反対側がわに来る日です。夏が終わって冬へ向かう間ほくおうのころといふこともできるでしょう。北欧などの緯度いどの高い地方の国では、秋分からハロウィン(10月31日)の頃ころに行われるお祭りは「秋の収穫しゅうかく」の祭りの要素ようそがあります。日本では、秋分の日ひがんは彼岸こくみんの中しゅくじつ日であり、国民の祝日として学校や会社は休みになります。



でも春分の日や冬至に比べると地味な感じがします。それは、まだ夏の続きつづのような感じがするからなのでしょう。9月はまだまだ暑いといった印象いんしやうがあります。

春分はまだそれほど暖あたたかくなく、秋分はまだまだ暑いのはどのような理由なのでしょう。それは、夏至げしの地球の大地や大気に「熱慣性ねつかんせい」という現象げんしやうが働はたらくからです。地球の大地や海のように大きなものほど温まりにくく冷えにくいという性質せいしつがあります。これが熱慣性です。夏あたたに温まった大地や大気は急に冷えないので、秋分の日はまだ暑いということになります。

もっと大きな惑星わくせい、例えば木星たとの場合、地軸じくがあまり傾かたむいていないこと(わずか3度しか傾いていません、地球は23.5度です)もあって、12年(木星が太陽しやうを1周する時間=木星での1年)間、気温かは変わりません。木星は大きいのでそれだけ熱慣性も大きいということになります。

地球でも、中緯度いの日本きせつのような地域へんかでは季節きせつの変化がはっきりしています。赤道はまさに常夏とこなつです。北極きやくや南極はいつも冬です。秋分の日には、ささやかな季節うつの移り変わりを楽しみましょう。

2021年9月13日記 (解説員: 齊藤 美和さいとう みわ)